所に次の領Uであるが際制のと否

フたが各無爺における機関無生敷一あるものは約半敷の十一部を敷へ

自然料級大學生が運輸のため

工一月一日はじめての概生長を辺

七日夕

開戦前夜の會

り死心歴史の日、十二月八

想ひはソロモンへ

銀坂田町の自田で遺典した、享年

あた九時廿五分京都市上京阪大阪 はかねて病類のところ十二月七日本風名無数授工機博士大騰清隆民 大藤博士逝く

から四時まで自邸において残っから四時まで自邸において残った。任別式は十日午後三

明日、本學查閱

來の事業面に相當の總化が強想る | 陣に伴なび當然自然尽傷系統原生

れる問題會においてはその侵害的の沙重、増大し、現在、交科系は

部圏たる各部総費の支出に

に 世祭 回興 會の 折動を 管照的 に担 のある、次に 各部の 委員 荷坂を みる 数を指す上「同に正式を解放され、あり、委員「名といえ都もあるの」 会官であった昭和十八、九年略の「であつて、この質問主要の職化」 置う選手も場合は代では明年に得まって「個別的な事業を探しては今 あるのものとことによる。 数、助教授の略既左のことく 回聚部震曲吉田震曳氏、同郷印上

一村講師教授に 四講師も助教授に昇進

式は宇物八時半から過速能強動式は宇物八時半から過速能強動が大力で振く太陽は明るくこの然として輝く太陽は明るくこのが、運動場の北 ※満場かつ→むうら定別松本學 摩部(一〇・二〇)養癌部道路・丁里季部、工 吉田助教授京和府出身、

非常措置策を豫算化 ******店市方科學研究所設置 案算豫省部文

題動において大坂、京都、和歌山

さる十五日開催された近極行政部(研究費材、費用の配分、研究成果

(イ) 武道 (統州斯、射蘇、刎道

定か行ひ、各研究の連絡をはかり

の要請に残早く前期せんと 投物員の新成に相當思い切べ の場の研究 電元、研究省の極遠

時非常当量方策の重要部分がここ

郷奴案はおる十日問題で決定、情報の発力を表現の終れ十九年度 あつたがこの中文部省の強算は四

あり、また器体は卒業と共に夢 動接にその効果に集守られつ を扱って戦ひ、ひとたび寒戦・一般局を通して飛袋られるところが

要集をあげるべく卒伝の中にあり 教育5回新し料部扱野、技術員機

な の物養から関係せんとするものの 関節を務びつくさんとし、カイロ以 局質を察びつくさんとしてある。 空点に関処

大東匝の一角から ――トにマーシャルに耐太平洋に日 へて投寄に先人の依頼をにづかり ――トにマーシャルに耐太平洋に日 へて投寄に先んがは近く、この日を廻

がた、機任報路は新松工販将四

学研動員 さのに関連 本土最多質年素徳の心感に叩きこのである

君の既命の辞書も、九時、月での

は 日本職職の場合、日本土職の科學 の 会議の支部の会は一節十八日(土) 三年後一時から架大会館で開催され

化學會講演

を集め協議會 學校報國隊長

文部省吳越硏究會議ではその推進 十三日にわたる町寒心身鰕繁顕劇教展研究監察解方徴にもとづき 徹底を期し、明年一月十日から二

委員決定 光電を光 を置席し張ったが今在一層での

※二時から中立置きに本帯をはじ の節大、肝立臓大、同歯科、立大 同大、谷大、三高、茶瓢、茶工、 選書その他皆間の重要な問題に関 學定報開散の防器補助員に對する し、京都府書助講ではさる四日午 式行壯陣出徒學灣台

行擧で宮神安平 日九 保護機能 (性力)・下目下よの見機能を参加 連合と同じく機能・転換やおき組 (本種機能交換の重要的に十二一大等がは一個な機能を) で 関連的 エネ無性機の 医神経が (対する場合・ 一年の)・「一年の (対する)・「一年の)・「日本の

国内大、谷大、三高、高壁、路工、 實 總東、此東、巡灣美際東門、同志 東門、京都別觀の十九大學、海東、社 社 (2)

評議員更迭

今をは一層強化 學徒冬期鍛鍊

今後も錬成に重點 待機學生への緊急教育

火曜日春心照御候成た實施、いつ

本。 一種水流行 本建設層部助教授 原 進度 本建文學部副園 除育富太郎 東京外語教授

古典音 菊池 大乗と小乗機本問題第三頭したる大書の古本正章者への対象を表明に対象を表明に対象を表明に対象を表明に対象を表明に対象を表明に対象を表明と 國 的 究記紀篇 **究** 記 紀 篇 劉明的研究。 集 かしき遠泳場。 化意

次回發行

本記 罪論論

小出殊だ、灰畑度の指摘

日

堂

祖合經濟・配合整治 大東車 美浪地域公子

*庭園新 紀

痛頭

の対しののな難に関係に

農産物質格論を具体的に使用さるもの、以様子人民時は一路、正、夫者(4.5円)資保の高、環中技術部等下、例以批准との主導のもと 朝鮮農政の課題

经

杉本行夫者 傳 花鏡。 本書に重味と使用とを参ね件學と書中の一環場できる。

顕に依り説明を使ならしむ 経せらものこして窓営者びに描 本書に様太の自然を料理的に解 文

樺太 玉貰光一著 o 自然

0 基 礎 機概 微微 弘

中心に大東距の全地域にわたる様のへ所期の効果にまだしの既が

たが、何分隣相参加や墨土側の自一ル黒土楽温ルの観査なる段底、

のであり暴界へ大きな指針を順へ 墨生に檄を飛ばし、法文部墨徳を

現代數 業集中 論 高宮 晋 四·九五

電車では19日本では、日本の企業が、開発などに関係では、またまでは、19日本では、 醫學部の學生隣組 刊新·閣斐有

垣見級古堂

療機的(1三・00)機場的道 の)運動機

好下各所で一野に開始 ひれる極端

所科學研究會 原理のため、大学の個具質由のでにつきを示した。

第三回講演會

小泉教授還曆

植物分類學に不滅の學蹟

の墓蹟は日本植物分類墓史上

組識を強化

一月三十日附を以てめでたく遺膳 **通秘的教授小技術一博士はさる十**

物でも知地理研究に後頭、バラ種

會員は質的に變化

自される今後の動き 量

改改版訂 戦力増强の理論を養術・工藝 本經濟法の理論 帝國憲法講義 宋川

佐藤丑次郎著佐藤丑次郎著

(株成田春夫 一・五三) 河田 翩郎 一・八五 神田・田〇

岩田新著岩田新著

819

ることを意味する。 支地民族資本 整将し得ざる安全であつ

御用生是作

脱の変質した一つの外路を持つも

より出てて整備をよりしての指路 を見出し得るものたらしめること

野行群公に欲すべきるのがある

酸の態労を探つてあるとは積取し

これとて結局は投機的に思惑的に 化の神に正常的原道に乘替へしむ 却つて生産間に直接に近郊り得る止鎖筋の分野に突入するにおいて 要義務を守るに忠實なるよりも無

脱を脱し得ない分野が大きい、軍

に輸院不明時なるままに傍網的形

中國軍是等物利出

家の地域においては国族資本も 法職にしてが対象に對する態度と

内容を持つべきであり、この新支

均衡を破りてさへある環状である一帯力が他の既に集中され、其の異

既買力としては却つて物質術館の

高利润を追求し

性質、我法制史上に有する其の住 其の金銭を担覆しておく必要があ

いけを得るる事職であるが、一般の はを得るる事職であるが、一般の

肝し質料の面々の細は物品論は

工物學總統2000年級加加 2000年 2000

の金成をよく理解し得られるもの

期に於ける民法典の鎮塞過程

图·罗阿士 湯 浅

での数米の近光を調金器一と

同

文

部勢力

も、質問資本的性格からしても関

乏しく、皆四颗本的性格からして

はれ、浮動戦闘力でとどまつてあ

悪い本からも附着はこの世界に 間の張騰はこの現實の世界以外 であり、この意味において悪い ついての何等かの知識を得るの いのであるから、替い本からも 響い本でも張い本でも人間の

ースには20分音等な問題いが であるが、文理や作家につい であるが、文理や作家につい であるが、文理や作家につい であるが、文理や作家につい る。新聞図者やラジオである。新聞図者やラジオである。新聞図者やラジオでありまたも少いの 的に普及させる事が出来るから 配機器に作家がごんな小説で語での小説で詩の大多葉は、如 いても無陽係である。 彼は小説 増工こう こうこうこう しても、一般誘着の方で受けつ

を履ぶないから、女郷に関して

でなければ受けつけないに考ま

い本から思い影響を受けること

2

民

族 資

本

たものである。同に換管すれば をものである。同に換管すれば

資本に侵奪された支邦大関ではあ

けである。然るに現實の民族資本

数の調響に属する曲折は低単級ね

聞と其の努力に到して頭の下るも

アメリカい

アメリカ戦時經濟

000

置料の開密なる機制なく

同學の十分努力に依りて明るみに るが知ら聞がある。数年前迄否昨

して産業問数に突進するに忠實な

表に於て明治法制の研究が斯の如 明瞭となつたのである。

るが、民族費本級の岩干は米英質

より悩め難い向のあることも知悉

路をとり、民族資本もが同様の相 あたが、更新の機器には膨れなか そのことは開知の事實とはなって つた。支部関長総費は外的と内的

支那民族資本の性格と歸趨

清

さついふ物質は残々の吐きには をだびく種かきりのないのであ るっ大をのの病者は、宮はい、 自然のやうなもので、悪い本を 自然のやうなもので、悪い本を を獲めに等い色に顕まり。善い本 本も書い本と同じに読者に取っ て有益であり得る。レかし思い 本からも益を得るのは既に正し い思想達式をもち、その故に驱

大暴で単生の好像心に答へる 大暴で単生の好像心に答へる

て全く脚激の間に塩へないから、文里を展別な映着層に普及させから歌い色に頭をる瀬舎に弱し、文里が普及してゐないのである 文屋の領域でも善い本は極めて であらうで、軍は難くに当りない。 等くのは一般勝名に終のない、であらう。これは難くべきこと あるのに、今の大部分の作家がいてあた難がに注意されたから いて深してくれることを求めていてある。 暴とにはれてゐるものを無能別 人面のことかである。だから一な異を展現な微者解に普及させ は微者の真帽からはおよそ或けのなが、現在文 何か昔の上的た公式から出來たないのである。 だから一次異を展現な微者解に普及させ は微者の真帽からはおよそ或け 図 ることを作家が明瞭な形象にお で について自分が演然と感じてる の 自分の友強や、上後や、親兄弟

讀者•文學青年•批評家 除 古

QIS 例のとい場合が多い。ところが含果っている物質を表すして、何時の頃からか、明教の場合に、何時の頃からか、明教の場合にある文明を表した。 迷路に迷ひこんだやうなもので 鍵であつて、木當の哲學者や文 如何に歩き建つても本盤の意味 文の抽象性、朦朧性をむ

太

ひき酸 いふ医療を草欒する害である。 、それのようて楽たるところを の作品を先づ訳答に提供して、 質繁を以うて接き出し、その間 物を見る眼を養はしめ、変の胸 に何めの思いる。何なのごまか に木造の整門への歌をめるめし

ある。この最初の世界を願わて、しててきる。 村田舎を建立った 総務は大い。この世界の中で、かによってこの情報が決定され をの音変変素を願え、確認は、 ることが必要である。そして本 ない。前り、我なの音変変素を して型が出るれた本名の観視 ない。前り、我なの音変変素を して型が出るれた本名の観視 ない。前り、我なの音変変素を のことが必要である。そしてか としてから にしている。 して型が出るれた本名の観視 ない。前り、我なの音変変素を のことが必要である。 して型が出るれた本名の観視 ない。 は、 のことが必要である。 としてか にしている。 にしている。 にしている。 にしている。 にしている。 にしている。 にしている。 にしている。 にいる。 にいる。

めることが必要である。 れ
も、何のことやらさつばりわか
を
してゐる。この第二種の助師家
を
してゐる。この第二種の助師家

れないが、私のいふ眼様

第一卷

新關良三著

·羅

馬

演

ず、本質の藝術であるから、そ の「不如師」を確心であたこと

政の機器を考究する有力なる研究 見るべき成果は既に極界に地階で 分野に集中され、此の方面に於て

母賣料を蒐集して紹介にれてあ

の気に油物の基本技術を論ぜ 論

京

堂

日山 コンラッド・メイリ著 三・一五

、北の駿理海経期を配して

で にのである。批評家の郷間の多で、 在まで女優に定聴が出来てるな 本質の製造の仲間に入るか―― れる。明治以來の文墓において

格

的 な著

述

星野進氏,明治民法編纂史研究

續明治文學史

早川

欣吾

事されたものである。此の

歌舞伎史。研

元河竹繁俊書

による事をせず、古代より近回に至る日本演訓・施領報弊代劇の性格を糾死するに後来の如き歌舞伎史のみ歌舞伎劇の性格を糾死するに後来の如き歌舞伎史のみ

加へ、単に腰鹿の考と思士の脚

平尾道維著(B

アリア

リ景

(全郷)

中に管へ、脱る。

ではた。このころでの日間、たけ様が3回はなる種がいませた。このことでもなりませた。 の最初、はこのこのは、そのは、毎の成績・の目で、ものでは、近、年の日は、近、ことでは、 を書くさせて、「近のなかっとの」、近の一というもくの表には、そのながられた。 を書くさせて、「近のなかっとの」、近の一というもくの表には、そのながられた。 できまった。

とものではなかつたか。 る。この総批な資心はやがて「南

中で、三直何十枚と舞められた短 気色鮮やかな虹の節に匂みばかり

たご、四氏にすべて新界で 短帯はた以大館人の異語古を思ば

| 図えた戦が繋でいるだけに買い摘ってき、聴じてごの一部から買い出場の適当とすべきものものくたか。 される質問以は、惨折の安観で感のののがであってのお問じ、すらに文之語り命を掛けて起った。 観をおけて起った。

得の身の壁を、私は深く欧洲セデー盛しくあまりにも強いたものであ

c-保田氏の近著につ

額

さっちへながら私は思ふらもなく

器婦」浄闇心芝時のそれと柔く同 不思議な歌歌は、かつて「南山路

関 した一番と通じて、言葉の風雅が 要す、君の妻にむふべき我が古への で、君の妻にゆる竜荘の診臓と

はひから、私は不良審な感激を管

の 一部のけ に、私性基関の質の無質を切ない 大き同時 つた。 ひかるこの近しい無ジの中 かと同時 つた。 ひかるこの近しい無ジの中

が それであつた。

日 関射臣の不本を思辞や事返の中 関対臣の不本を思辞や事返の中 中からも、十分に暴びたる害が出。 なごつたのではない、しからでれ

整備員の心にその法法領があるの

活に続された楽しい雅びこそ、概 のけなひであつた。しかもある短 のけなひであった。しかもある短

海源民」と話じた人の高いなが、 のて層だ。何故なのは「本兵師州 光年の「南山路雲線」のことを思

思 それから二三日を終て、私はゆ 思 それから二三日を終て、私はゆ 「周山島護録」を手にする事が よ

さうしてそれは現在の時局と世帯

傷め風水疾病で指揮されて取った。こと語的な風の根の疾事であったたけ、足迹の別を持つて「身になかった、江戸時代の散撃が、つきりと見たのである。それに何、賊なの四式く称せて取る筋なを防に、地の明らのたちに大なもので、そある事を、私に今宝のあたりは、しるとりて現れて豚るからである。

という適的小塩酸の器の表現であ

で、谷陰の朝を振って「身

日我々は保田氏の考によつて、深 事と観察とは南山の菊花に不滅の めた文人であつた。しかも彼の文 観ふすべを得つた武人ではない。 不思題な影響と

経地はここついても性は酸別を

てれ自信に問題

地區との数目前の翻字の方文で解析動用家

が寄港勘ねたのはもつ夕万

つた路か、帝場にも四、五人の人

新の芯士の小を終いた國際の概

たのである。何のことの名誉から、六てあった。「触五十に触れる 近いとは彼ないけつだち、神代な、無の歌目人にあるの子を見捨て、 がらの間の間に生きずしてはやま、美きまが輸入料りで、子を想て見 のまった。

が敷脂の誰に傳伝る古鬘の高いし

胃腸病

なにおいての一課題に開約する

区與公 完分第二章

が描には知歌を強も多か 他句や微彩でひになるの たの句には対象であるは 法でなるのがおいのはも きったともには と言葉のけ たりはのもった。こころは たりはのもった。こころは

雅勝秀夫著(GeのECO) 東東西七〇台の戦時、生活の法(東京) 東東西七〇台の戦時、生活の法(東京) 東京 15年2日、北京 15年2日 東京 15年2日 15年2日 東京 15年2日 東京 15年2日 東京 15年2日 東京 15年2日 東京 15年2日 15年2日 東京 15年2日 中 4. 将東京一〇八〇二 東京・日本機・通三 東京・日本機・通三 り回 河 出 書 房

堀口 表古著 つき希望者は鎌か申込まれた 新興木構造學

竹原文泉社

日本教學の特性 巻泉 現まる の 立 場点 を 関 く 魂の 嚴 陸 思 魂の 斷 屬 英田俊彦著 想 史露 論總川教信著 松原致遠著 高舉了州著 足利淨囲著 遠山諦觀著 白井成允著 上次河 题目。五四 -00 南東方院灣西區於下市都京 社上 2000年三 和京 智能 社上 人 全

華枯靈大日宗愚道

アンコール・ヴァツトの景觀 田 正二著 寸. 命 四十四四四十四十四日 館 出 版 部 振響大阪二六九四四 後十<u>電</u> 和二間 ●七十 0 度 三九

高野山根本大塔 突高野山根本大塔 突 NIC AND THEORETICAL CHEMISTRY TEXT-BOOK OF PHYSICAL CHEMISTRY

算提

提號要

(四大倍判)三九〇頁(弘報十六號 新四宝九一 壁書と柱繪 後期・三〇四十七四

A MANUAL OF CHEMICAL ANALYSIS 化學・物理・機械・電氣 工業圖書出版社

善 波 郷徒の中から第二、郷三の夕賦留々が生れることは必定、前務総後打つて一丸ヶ県間々は京大の生かた質問留課である。今や多くの保健は出陣する。この出庫 派め一様、而して激励顕著として前級務士への澎問袋にされたし。 戦物神』に依つてこの型散勝ら扱かごる ●顕載がは京大の中心た質質哲説である。今や多くの傷種は出陣する。○一人して既に放十折、数目指の●類性/多問款に耐つた施志表もり) 周 著 (待望の第三版二萬部出來) 生 堂 書

第二一巻 ア イ ス キ ユ ロ ス 傾約六・〇〇 第一十年間努力の大著、第一巻は着騰復劇の起原發 著者二十年間努力の大著、第一巻は着騰復劇の起原發 著名、一十年間努力の大著、第一巻は着騰復劇の起原發 スの濱剛理語を演劇発展の簡件現象として紹介せ 市年代中華までが詳細細端せる書下し新稿 日平以後回か日 新松学家養の関民文事勃興 日本 八〇 希臘演劇史概說 價 八、八〇 劇史(全九卷) 加 干聯系 朝村 出著 宗守著 - III 世界 (茶道文庫) 像

京成國語 樓學 圖隨叢 入北條四旬原河市都京 番七〇三三二都京營提